

第 87 回麻布獣医学会 一般演題 12

アトピー性皮膚炎犬における *Malassezia pachydermatis* の感作状況

岡本 憲明¹, 石丸 浩靖¹, 木内 明男¹, 藤村 正人², 阪口 雅弘¹

¹麻布大学 微生物第一, ²ふじむら動物病院

犬のアトピー性皮膚炎 (Atopic Dermatitis : AD) は小動物臨床において重要な疾患の一つであり, AD 犬においては, 皮膚に常在しているマラセチア菌 (*Malassezia pachydermatis*) に対する血清中の IgE 抗体値が高率で上昇していることが報告されている。また, 人においても, AD 患者におけるマラセチア菌による感作が報告されている。マラセチア菌は脂質要求性の酵母様常在菌で, アトピー性皮膚炎の憎悪因子と考えられているが, 犬における *M. pachydermatis* とアトピー性皮膚炎との関係についての報告は少ない。本研究では, アトピー性皮膚炎を発症した犬を除去食により食物性アトピー性皮膚炎と非食物性アトピー性皮膚炎の 2 群に分類した。*M. pachydermatis* および

(Intradermal Skin Test : IDST) の各検査を行った。これらの検査結果から, 両群における *M. pachydermatis* およびダニに対する反応性について検討した。

ダニアレルゲンに対する反応性から, 非食物性アトピー性皮膚炎の多くは, ダニを中心とした環境性アレルゲンが原因と考えられる。一方, *M. pachydermatis* に対する反応性および血清中の IgE 抗体値を調べた結果, 非食物性 AD 群において有意に反応性や IgE 抗体値が高いのに対して, 食物性 AD 群では, *M. pachydermatis* に対する反応性が弱く, IgE 抗体の保有率も低かった。以上より, 非食物性 AD 犬は, 食物性 AD 犬よりも *M. pachydermatis* に感作されていることが示唆された。